

「こえる」をコンセプトに

信幸プロテック

新社屋が先月完成 楽しめるアイデア反映

空調設備の施工やメンテナンスを手掛ける信幸プロテック(本社・矢中町広富沢、村松社長)の新社屋が4月に完成した。新たな社内は、コポレートカラーの「レスキューレッド」が随所に映え、コンセプトの「こえる」を体現している。村松社長(48)は、新しいオフィスの特色を「顧客、取引先、求職者の学生さんなど、人が集まる本社を目指した。社員にとって、ずいぶん快適に感じてもらえる場所にしたかった」と話している。同日にはオフィスツアーが催された。

以前の社屋は築45年。二ともほは、同社での営業は4月10日から再開し、ワンフロア会長の村松幸雄さんが、始まっている。で41人の社員にとって10年前に建て替えた新社屋のブランドイメージになっていった。会社し、ようやくこの春シフトと設計を盛岡市の建築家がかちろつ実現した。新たな社環境、ジョークアンリミテッドも盛り込んだ。

下が相出し、社内には委員を立ち上げ、従業員のアイディアを反映させた。同社が掲げる、▽自分を超えろ▽地域・顧客との垣根を超えろ▽既存の価値観を超えろ▽災害・緊急事態を乗り越えろ▽部門の垣根を超えろの5つの「こえる」アクションを掲げ、社内には委員を立ち上げ、従業員のアイディアを反映させた。同社が掲げる、▽自分を超えろ▽地域・顧客との垣根を超えろ▽既存の価値観を超えろ▽災害・緊急事態を乗り越えろ▽部門の垣根を超えろの5つの「こえる」アクションを掲げ、社内には委員を立ち上げ、従業員のアイディアを反映させた。

「階フロアの入り口からオープンスペースまでの床には、子どもたちが遊ぶ「ケンケンパの輪」が動線として描かれている。カフェスペースのテーブルは卓球台で、仕事後に楽しむ社員も多いという。トイレには鏡にみえもように、ブルース・リーや、ウォルト・ディズニーの金言が記され、勇気を与えてくれるようになった。2階事務所への階段降り場には、同社のヒストリーを掲げ、おもしろいデザインパーティーを着た事務員が開放的な空間で業務に当たっていた。

村松社長は「(日々)の業務は忙しくて自まざるしいが、新しい環境によって、社員同士の距離が近くなつた。家族を連れてきたのもうれしい」と喜びを語った。

村松直子専務(48)は「お客さまとの触れ合いや、社員の採用にメリットがあるのはもちろんだが、何より社員が喜んでくれた。社屋を楽しんでくれて、話し合う機会も増え、以前よの仲のよさを感ずる」と目を細めた。今後は新社屋でのワークショップやバーベキューなどのイベントも行いたいとし、「長く矢中町に会社がある。地域とのつながりを持ちたい」と考えていた。(建物を)アイコンとして認識してもらえれば」と期待を込める。



新社屋が完成し、「社員間のコミュニケーションが高まった」と話す村松社長(中央)



ミーティングルーム前の天井には数珠を模え付けた

昭和三十九年
古賀政男と古園裕
小淵勝太郎と市丸の
は、鶯歌手といわれた

八幡ぼんぼり市
16日開催は中止
むらおか八幡界隈ま
ちづくりの会(大日)の